

「最終取りまとめ」に向けた進め方について（案）

1. 「最終取りまとめ」に向けた検討の方針等

- 「最終取りまとめ」に向けて、今後は、これまで検討会で行った確認・評価について総括的な評価を行い、ヒアリングを通じて明確となった一層の成果が期待される取組も含め今後の OIST の課題について整理する。
- その上で、規模拡充や財政支援の在り方等についての検討を行い、結論及び提言を取りまとめる。
- 上記を踏まえ、「最終取りまとめ」の構成は以下のようにはどうか。
 - I. 検討の経緯
 - II. 評価の基本方針
 - III. OIST の現状に関する項目ごとの確認・評価の概要
 - 1. 組織運営、2. 教育研究、3. 沖縄の振興及び自立的発展への貢献、
 - 4. 広報、情報公開、その他法令遵守等、5. 財務
 - IV. 総括評価及び今後の課題
 - V. 規模拡充、財政支援の在り方等
 - VI. 結論及び提言
- なお、エビデンスとなるデータやヒアリングの議事概要等は参考資料として添付する。

2. 今後の議論における留意点

「最終とりまとめ」に向けた議論にあたっては、以下の事項について留意する。

(A) これまでの OIST の成果・取組を国際的なベンチマークでどのように検証・評価するか。

- ①「世界最高水準」という評価基準について、観念的なものではなく、具体的な指標があるか。OIST の成果を客観的かつ定量的に他大学と比較し、位置付けを把握できる国際的な指標は何か（現状ではインサイトやネイチャーインデックス等に限定されている。）。

(B) OIST が将来目指すべき規模を考える上でのクリティカル・マスの考え方やその根拠を明確にすべきではないか。

また、今後、中長期的な規模拡充を検討するのであれば、国からの予算措置に上限がある中で研究の質を確保しつつ運営できる規模がどこなのか、何を優先して行うべきなのか、現実的な検討が必要ではないか。

- ①OIST が成長する適切な規模をどのように考えるか。
 - ・建設中の第 5 研究棟は、令和 4 年度内に完成予定であり、令和 5 年度には教員（PI）数は 100 名程度となる見込み。その後、目指すべき適切な規模をどのように考えるか（当面は 100PI 規模で推移するか。更なる規模拡充を行うか。先端科学技術を深めるのに必要な PI はどのあたりか）。
- ②国からの予算措置に上限がある中で、何を優先して行うべきか。

(C) 中長期的な視点から計画的に OIST の規模や在り方等を政府も含めて検討する枠組みが必要ではないか。その際、日本の科学技術政策全体の中で OIST をどう位置付けていくべきか。

- ①規模に対して、国からの財政支援の在り方についてどのように考えるか。
- ・財源について、沖縄振興予算を中心であるならば、沖縄に対する貢献を目に見える形で示す必要があるのではないか。世界最高水準の教育研究を目指すということで沖縄振興予算からさらに大きな予算を投入することは難しく、「検討会として最終取りまとめ」においてどのようなメッセージを発すべきか。
 - ・自立的な成長には財政基盤の強化が不可欠であり、まずは、OIST が自ら掲げる外部資金目標（ベースライン予算の 10%）を継続的に達成することが必要ではないか。

(D) 沖縄に所在する OIST が国際的頭脳循環の拠点になることが沖縄のみならず日本全体にとっても重要であり、その具体的な方策を検討し、実行すべきではないか。

- ①沖縄にある OIST が国際的な頭脳循環の拠点になるために必要な具体的な方策は何か。
②OIST に教員、研究員、学生として在籍した者が OIST から離れた後、どのように活動しているかを把握していく必要があるのではないか。

(E) これまでの議論を通じ、制度の見直しを行う必要があるか。

3. 今後のスケジュール

- 「最終取りまとめ」に向けて、以下のスケジュールで進めることとする。
- ・ 4月～6月：総括的議論（3回）
 - ・ 6月：「最終取りまとめ」の取りまとめ
 - ・ その後、「最終取りまとめ」を沖縄担当大臣に提言